

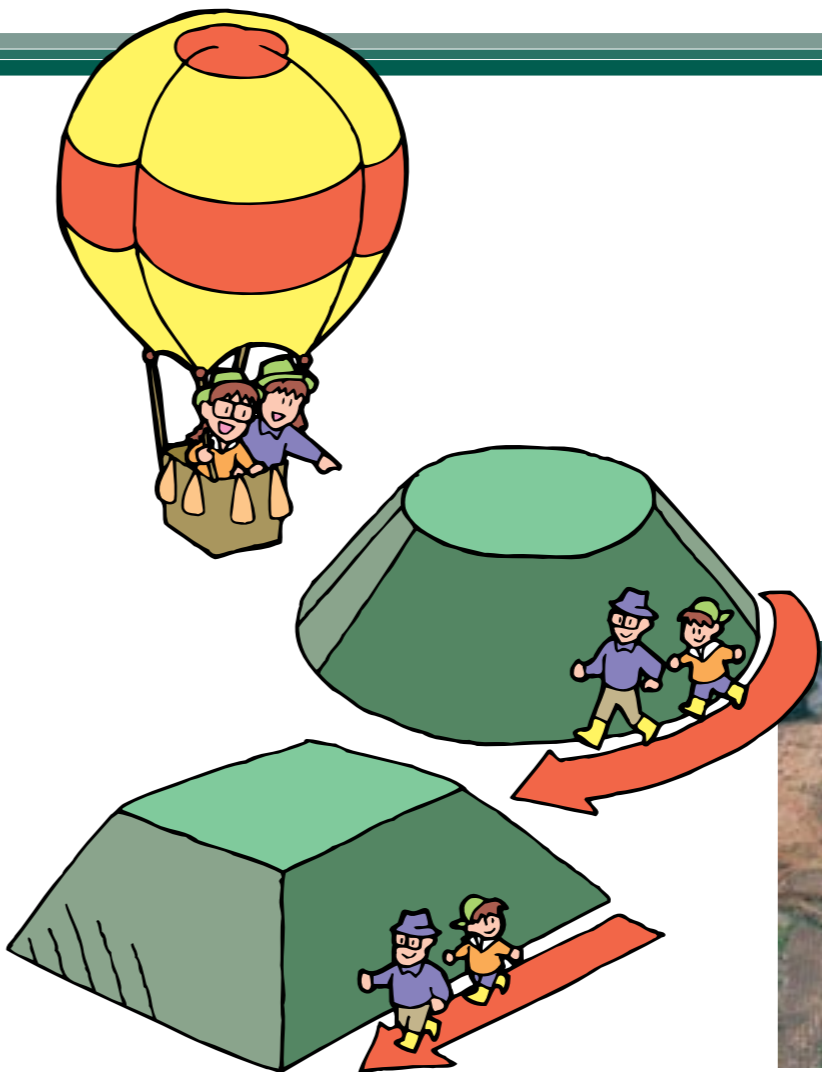
# 古墳の形を知る

## 上から見た形

古墳には前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳などがありますが、これらはみな真上から見た形をあらわした言葉なので、空から見ないかぎり実感できません。「こゝでは視点を変えて、古墳を歩くことにより、その形を探る方法を紹介しましょう。まず、古墳の裾を見つめます。見つけたら裾に沿ってぐるぐる歩いてください。まっすぐ歩いたら方墳、弧を描いて回るようだったら円墳です。



空から見た前方後円墳（浜田市・周布古墳）

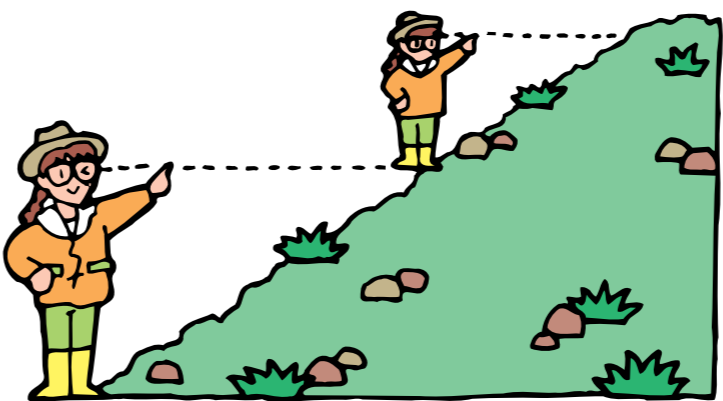


# 古墳の大きさを知る

## 自分の体が「ものさし」

小さな古墳の大きさを測るには、三〇メートルの巻尺があれば十分です。しかし大きな古墳の場合や巻尺を持っていない場合は、自分の体で測ることができます。長さだけ測りたい場所を歩いた歩数と自分の歩幅から計算して出します。自分の一歩がどのくらいか、出発前に測っておきましょう。

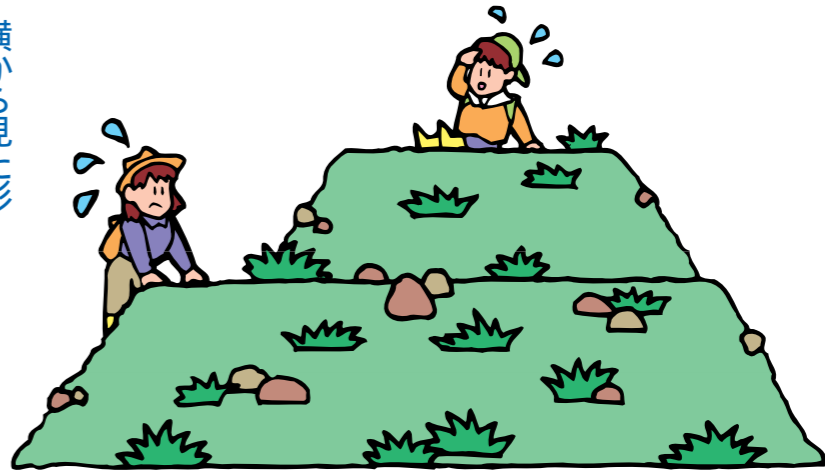
高さを測るには、まず自分の目の高さまで登ってみます。これを繰り返せば、おおよその高さが出るはずです。ただしこの場合、自分の目が地面に対してちゃんと平行になっているか、注意することが大切です。



## 横から見た形

古墳は横から見た場合も、それぞれ個性を持っています。古墳の高さや、斜面に段があるなどの変化がそつです。平面の大きさのわりに背の高いものがあつたり、二段や三段に造られたものもあります。

こうした特徴を知るには、二〇メートル以上の大きな古墳の場合、実際に古墳に登ってみることで、裾から頂上へ上がる時、途中で平らなところが一カ所あれば二段になった古墳です。



# 形・大きさの意味を知る

## 古墳は力の表現？

古墳を造るには、大勢の人の力が必要です。多くの人を使える有力な立場にある人たちが、大きな古墳を造ったのではないのでしょうか。大きな古墳や、たくさん古墳が造られたのは、大きな平野がある地域です。平野が大きいということは、それだけたくさん米が生産され、多くの人びとが生活できることを意味します。この多くの人たちをまとめていく過程で、人びとのあいだに上下関係ができ、古墳を造って埋葬

される有力者と、そうでない人が生まれたと考えられています。

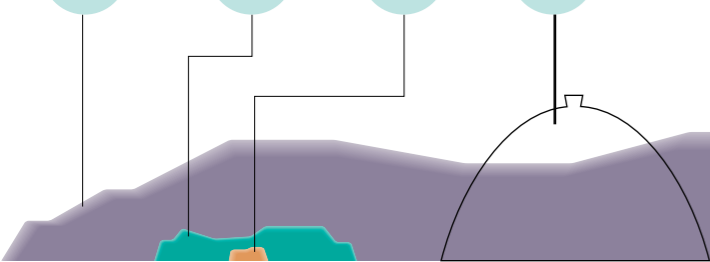
## 古墳を造るには許可がいる？

古墳に埋葬された人たちは、すべて同じ古墳を造ることができたのでしょうか。各地の古墳をよく見ていくと、それぞれの地域に個性があることに気がつきます。たとえば松江市周辺は、全国的に見て、方墳や前方後方墳がかなり多く見られます。また大きさは違ってもそっくりな形をした古墳が、まったく違った地域で見られることがよくあります。これは全国的に見られ、一枚の設計図によって造られた古墳が複数あるためと考えられています。これらのことを考え合わせると、古墳を造ることを許可したり、形に関して指示を出したりする人間がいたのかもしれない。もしそうだとすると、その頂点に立つのは、全国で最大の前方後円墳のある畿内（現在の関西地方）に住んでいた人たちの可能性が強いと考えられています。

# 古墳の大きさ(体積)の比較

(高さは長さの1.5倍に表現)

- 大仙古墳(仁徳天皇陵) 大阪府堺市 推定体積140万m<sup>3</sup>
- 山代二子塚 松江市 推定体積1.2万m<sup>3</sup>
- 林43号墳 玉湯町 推定体積70m<sup>3</sup>
- 出雲ドーム 出雲市 体積約45万m<sup>3</sup>



## 古墳築造基準法

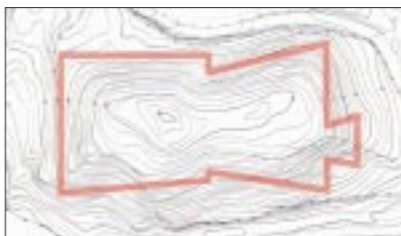


## モデルチェンジをする墳丘の形

墳丘の形は時期によって変化し、とくに前方後円墳と前方後方墳の前方部にその特徴が強く見られます。県内の前方後方墳を例にとると、最古のものは前方部



4世紀ごろ 松本3号墳 (三刀屋町給下)



5世紀ごろ 古曾志大谷1号墳 (松江市古曾志町)



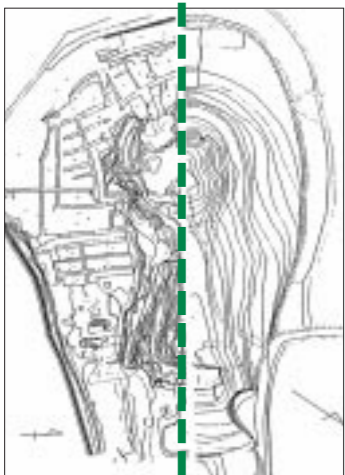
6世紀後半ごろ 古天神古墳 (松江市大草町)

## 大きさも形もそっくりな古墳

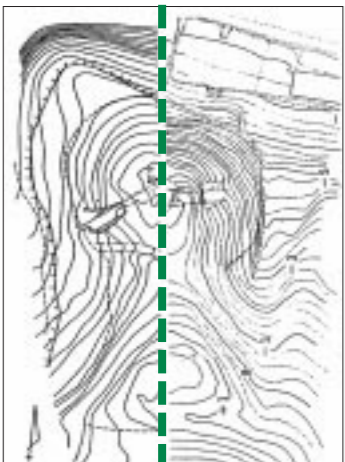
前方後円墳や前方後方墳といった幾何学的な形をした古墳に、設計図があつたと考えるのは自然なことです。左の図は、二つの古墳の測量図の縦半分をくっつけたものです。両者はそっくりで、一見する

## 二つの古墳のようです。

大念寺古墳はまわりが墓地によって壊されていますが、石室の方向も一致し、墳丘もよく見ると、こつこつり塚古墳に似ていることがわかります。両者は同じ設計図を用いて造られたのでしょうか。



大念寺古墳(出雲市今市町)



妙蓮寺山古墳(出雲市下古志町)

こつこつり塚古墳・江崎古墳測量図は、岡山県史より。大念寺古墳測量図は、史跡大念寺古墳保存修理事業報告書より転載。一部改変。